

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100076		
法人名	株式会社 アルテディア		
事業所名	グループホームあかね	ユニット名	1階
所在地	静岡県富士宮市小泉2302-7		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	平成25年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/22/index.php?action=koubyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JizvosvoCd=2292100076-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaizokensaku.jp/22/index.php?action=koubyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JizvosvoCd=2292100076-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年3月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・その人の個性やお客様同士の関わりを大事に、できるだけその人らしく過ごしていただけるよう支援するよう心がけている。また地域での行事にはできるだけ参加できるようにし、外部とのかわりが持てるよう働きかけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに入ると吹き抜けの中庭があり、眺めているだけで心が休まる気がしてくる施設である。管理者が交代してから2ヶ月も経っていないが、利用者にとって一番いい方法を見つけるには、言葉より気持ちが受け取れるケアの充実が必要として、職員と協働のもとに運営に臨んでおり、ホーム内は明るい笑顔に包まれている。また、地域に根ざしたホームとするため、運営推進会議の定期的開催や、理念の共有化の実践に力を入れ、サービスの質的向上を図りたいとしている。法人による一貫した職員研修と熟練度やケアの専門性を加味した段階別達成度を職務体系の中に組み込んでいることや、法人内の各委員会の活動などで更なる飛躍が期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は明確にはないが、地域に根差し、その人らしい過ごし方ができるよう努めている	設立当初の理念(笑顔、分かち合い、心がけ)を踏襲し、その実現に努めている。	日々のサービス提供場面である言葉かけや接し方・態度等を振り返える中で、理念を具体的に捉え、職員共通のものとしてケアに反映されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、行事への参加やボランティアの受け入れなどは積極的に行うよう努めている	地域の行事や祭りなどに参加して、良好な関係を築くようにしている。ボランティアの受け入れや散歩時でのあいさつや介護相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大々的には行っていないが相談や見学はいつでも受け入れることができるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にて頂いた意見は、スタッフにおろし、活かせるよう努力している	運営推進会議メンバーは、市職員や地域包括支援センター職員・区長・家族代表・利用者代表・職員等により構成されている。現況報告や意見交換の場として活用しているが、前年は定期的に開催ができなかった。	2ヶ月に1回の割りで、定期的に行うことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の開催などを含め、信頼関係が築けるよう努力している。	運営推進会議の報告や生活保護や権利擁護の利用者の関係部署との連絡・報告・介護相談など、行政と協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束についての研修を受け、スタッフにも伝達し、日々取り組んでいる	身体拘束をしない様、管理者が研修で受講した内容を全体会議の場において伝達して、身体拘束をしなくてもよい安全な環境を目指している。	研修結果を職員の共有となるよう、身体・言動・薬等のロックの具体的な事例、内容等について研鑽されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修を受け、スタッフへ伝達し、日々取り組んでいる。また、日々の支援の中でそのようなことがないように、職員同士で注意しあえる環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受け、スタッフへの伝達を行い、理解できるよう努めている。現在は活用していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約についてはきちんとした時間をとり丁寧に対応を行っている。またその都度わからないところは聞いていただき、不安のないよう対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様には日々のコミュニケーションの中で、意見や希望等を聞くように心がけている。また面会時にご家族様と話をする機会を作り、意向等を聞くようにしている	ご意見箱を設けているほか、運営推進会議や家族等の来訪時に意見や要望を聞いている。また、家族向けに毎月お便りを送り、家族との関係を密にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あかね会議やカンファレンス、管理者主任会議などで発言できる場を設けている	日々職員と接する中や、ミーティング・全体会議等の場で意見等を聞いている。また、職員の人事考課の際や時間外の懇親会等においても職員から意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力行動評価などを使用しながら適宜面談を行なっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、個々にあった研修に参加できるような仕組みができている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設との交換研修などができるようになってきている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が安心してできるよう訴えや要望を傾聴し、日常生活の会話の中で話しやすい環境を作っていくよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りにてご家族様の思いや要望を聞きとれるよう心がけている。入居後も来所されたときに必ず声をかけていき、報告もまめに行うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談時にお話をよく伺い、どのような状況であるかを確認し、十分に話し合うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の生活リズムに合わせながらも一緒に食事をしたり外出したりすることで、信頼関係を築けるよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時面会時やお便りなどで様子を伝え、その時々にあつた支援をともに考えられるよう、情報共有につとめている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話やご家族様からの情報を共有するよう、心がけている。	利用者の希望により買い物や・花見、ドライブ等のほか、家族との外食や、墓参りなど馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席や外出等の組み合わせなど配慮し、声をかけあえるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供や相談など、状況に応じていけるよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様のひとつひとつの言動や表情からくみ取り、できるだけ意に沿えるよう努めている	表情や態度から利用者の思いを読み取る観察力の習得に力を注いでいる。また、利用者の発した言葉をそのまま受け取るだけでなく、言葉の背景にあるものを探る努力で利用者本位の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント時にできるだけ詳しく、また入居後はご本人や家族から情報を得るようにする。聞いた発言など記録に残すようにする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援が必要な時、自分でできることなど職員がそれぞれに持つ情報を共有する場（カンファレンス）を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	副主任や担当者がご本人様やご家族様の意見や状況を聞き、介護計画に反映するように努めている。	利用者の意見を直接聴き取っている。家族からの要望も、電話や面会時に聞いて介護計画に反映している。各種記録や医師の意見、アセスメントやモニタリング等で課題を探り、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録だけでなく申し送りノートなどでも情報を共有し、その時にあったケアができるよう、話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じ、ご家族様にはあかねでできること出来ないことを明確に説明するようにし、必要に応じて他のサービスと連携を図り対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの生活の歴史や生活などを加味し、その方に沿った支援を行えるよう、趣味や楽しみを探る努力をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じ、受診を依頼している。また、訪問診療の希望の方は結果等お便りや電話連絡でお伝えし、主治医とも密に連絡を取るようになっている。	協力医の訪問診療又は従来からのかかりつけ医による診療等希望によって受けている。家族と医師の意見を密に橋渡しし、本人や家族・医師・事業所が連携して適切な医療が受けられるように図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護への申し送りをまめにし、その都度相談等できるよう対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族や病院と連携をとり、常にその方の状況を把握できるよう、心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段からご家族様との話し合いを持ち、できる限り今の生活を続けられるような努力を行っている。また医療的に強い場合は、職員の技量等見極め、できることとできないことをご家族様に説明し、ともに終末期を考えるようにする。	契約時に重度化した場合にホームで対応できることを説明し、家族の意向を聞いている。食事が摂れなくなった時点で再度意向を確認して、ホームでの看取りが可能であれば家族や医師と協力して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修や応急手当など、研修などに参加していただくことで、対応できるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回防災訓練を計画、実施し、職員への防災の意識を高めるとともに、地域との連携をとれるよう心がけている。また備品なども定期的にチェックし、いざという時のために備えている。	法人の「エリア合同防災会議」での話し合いを基に、毎月防災訓練を実施している。地域の区長や消防団、隣接する介護施設にも働きかけて協力をいただき有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にお客様の立場になって考えるように努め、声かけを行っている。また意思を尊重し、お客様の生活リズムを大切にしよう心がけている	一人ひとりの暮らしを大切にすること、そのために個々の思いや生活リズムを掴んで暮らしに反映している。嗜好品についても職員の見守りの中で楽しめるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の意思確認を心がけ、拒否等ある方も納得されるような声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の今までの生活に沿ったその人らしい過ごし方を尊重し、支援しよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で希望に応じた服装や身だしなみを尊重し、意思決定が困難な方でも、ご家族様や生活歴から推測し、あった形で支援しよう心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片づけ、盛り付けなどできる場所はお客様と行っている。	食事の準備から食事中のお茶のサービス、片付けに至るまで利用者は台所に入出しして力を活かしている。利用者同士の会話もにぎやかであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個々に記録しており、その方にあつた支援を行っている。食事形態については主治医や訪看とも相談しレベル時に対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけ、行っていただいている。また自分でできない方や、歯がない方などはうがいを促したり、スタッフが口腔内の洗浄を歯ブラシ等で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を心がけている。	排せつパターンを把握し、利用者の個性を理解した声掛けによりトイレでの排せつを支援している。無理強いせずに納得してもらっての排泄支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックによりその方に応じた対応を行っている。水分補給等にも気をつけ、薬だけでなく、腸の動きをよくするような飲み物や食べ物の提供なども随時行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせたパターンで入浴してもらうようにしている。また拒否などがある方も声かけの工夫でできるだけ定期的に入っていたりできるように心がけている	週2回の入浴としているが希望があればいつでも対応できる。二人対応での入浴は職員が協力して安全を図っている。柚子やお茶を使った湯など変わり湯を楽しむ支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく眠れるような環境作りに努め、布団干しなど環境づくりを行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が代わった場合は申し送り帳や口頭で説明し、また薬状をみて把握できるように個々のファイルにとじて保管している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が続けている役割を続けていただいたり、誕生日や季節の行事を企画したり、隣接の施設にくるボランティア鑑賞への参加を、個々の希望等も聞き入れながら促す等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など、個々に希望を聞きながら行っている。またご家族様との外出等は積極的に勧めている	寒い季節は控えているが、暖かい日には庭に出たり周辺を散歩している。地域柄、祭りや行事が多く積極的に参加している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望に応じて支援している。1, 2名自己管理にて所有し買い物に行ったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば応じている。また手紙等のやり取りも一緒に書いたり、出しに行ったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じ、壁紙を変えたり写真を変えたりしている。また気温等にも気をつけ、10時と14時にチェックするなど、過ごしやすい環境をつとめている	居間に採光・通風用の吹き抜けがある。温度と湿度は定期的にチェックして適切に保たれている。トイレは車いすが対応できる広さで、一階浴室は改装が予定されている。足をつけて食事することが大切と食卓の下に足置台が配されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に長椅子を置いたり、玄関先にベンチを置くなどして、その時に応じて過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのものを居室に置いてもらうよう説明し、入居後も随時ご本人様が住みやすい環境を作るために情報を共有している	馴染みの家具や使い慣れた品々が持ち込まれその人らしい部屋作りがされている。また、本人が落ち着いて過ごせるようブラインドを取り付けた部屋も見られるなど、家族と協力して居心地良く過ごせる部屋作りが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの配置やタンスなどの配置など、その方が過ごしやすいよう考慮している。またベッドや車いすなどその方にあつたものを使っていただくよう配慮している		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100076		
法人名	株式会社 アルテディア		
事業所名	グループホームあかね	ユニット名	2階
所在地	静岡県富士宮市小泉2302-7		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	平成25年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2292100076-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2292100076-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年3月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・その人の個性やお客様同士の関わりを大事に、できるだけその人らしく過ごしていただけるよう支援するよう心がけている。また地域での行事にはできるだけ参加できるようにし、外部とのかわりを持つよう働きかけている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は明確にはないが、地域に根差し、その人らしい過ごし方ができるよう努めている	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、行事への参加やボランティアの受け入れなどは積極的に行うよう努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大々的には行っていないが相談や見学はいつでも受け入れることができるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にて頂いた意見は、スタッフにおろし、活かせるよう努力している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の開催などを含め、信頼関係が築けるよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束についての研修を受け、スタッフにも伝達し、日々取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修を受け、スタッフへ伝達し、日々取り組んでいる。また、日々の支援の中でそのようなことがないように、職員同士で注意しあえる環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受け、スタッフへの伝達を行い、理解できるよう努めている。現在は活用していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約についてはきちんとした時間をとり丁寧に対応を行っている。またその都度わからないところは聞いていただき、不安のないよう対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様には日々のコミュニケーションの中で、意見や希望等を聞くように心がけている。また面会時にご家族様と話をする機会を作り、意向等を聞くようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あかね会議やカンファレンス、管理者主任会議などで発言できる場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力行動評価などを使用しながら適宜面談を行なっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、個々にあった研修に参加できるような仕組みができています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設との交換研修などができるようになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が安心してできるよう訴えや要望を傾聴し、日常生活の会話の中で話しやすい環境を作っていくよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りにてご家族様の思いや要望を聞きとれるよう心がけている。入居後も来所されたときに必ず声をかけていき、報告もまめに行うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談時にお話をよく伺い、どのような状況であるかを確認し、十分に話し合うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の生活リズムに合わせながらも一緒に食事をしたり外出したりすることで、信頼関係を築けるよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時面会時やお便りなどで様子を伝え、その時々にあつた支援をともに考えられるよう、情報共有につとめている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話やご家族様からの情報を共有するよう、心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席や外出等の組み合わせなど配慮し、声をかけあえるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供や相談など、状況に応じていけるよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様のひとつひとつの言動や表情からくみ取り、できるだけ意に沿えるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント時にできるだけ詳しく、また入居後はご本人や家族から情報を得るようにする。聞いた発言など記録に残すようにする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援が必要な時、自分でできることなど職員がそれぞれに持つ情報を共有する場(カンファレンス)を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	副主任や担当者がご本人様やご家族様の意見や状況を聞き、介護計画に反映するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録だけでなく申し送りノートなどでも情報を共有し、その時にあったケアができるよう、話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じ、ご家族様にはあかねでできること出来ないことを明確に説明するようにし、必要に応じて他のサービスと連携を図り対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの生活の歴史や生活などを加味し、その方に沿った支援を行えるよう、趣味や楽しみを探る努力をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じ、受診を依頼している。また、訪問診療の希望の方は結果等お便りや電話連絡でお伝えし、主治医とも密に連絡を取るようになっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護への申し送りをまめにし、その都度相談等できるよう対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族や病院と連携をとり、常にその方の状況を把握できるように、心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段からご家族様との話し合いを持ち、できる限り今の生活を続けられるような努力を行っている。また医療的に強い場合は、職員の技量等見極め、できることとできないことをご家族様に説明し、ともに終末期を考えるようにする。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修や応急手当など、研修などに参加していただくことで、対応できるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回防災訓練を計画、実施し、職員への防災の意識を高めるとともに、地域との連携をとれるよう心がけている。また備品なども定期的にチェックし、いざという時のために備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にお客様の立場になって考えるように努め、声かけを行っている。また意思を尊重し、お客様の生活リズムを大切にしよう心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の意思確認を心がけ、拒否等ある方も納得されるような声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の今までの生活に沿ったその人らしい過ごし方を尊重し、支援しよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で希望に応じた服装や身だしなみを尊重し、意思決定が困難な方でも、ご家族様や生活歴から推測し、あった形で支援しよう心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片づけ、盛り付けなどできる場所はお客様と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個々に記録しており、その方にあつた支援を行っている。食事形態については主治医や訪看とも相談しレベル時に対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけ、行っていただいている。また自分でできない方や、歯がない方などはうがいを促したり、スタッフが口腔内の洗浄を歯ブラシ等で行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックによりその方に応じた対応を行っている。水分補給等にも気をつけ、薬だけでなく、腸の動きをよくするような飲み物や食べ物の提供なども随時行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせたパターンで入浴してもらうようにしている。また拒否などがある方も声かけの工夫でできるだけ定期的に入っていたりできるように心がけている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく眠れるような環境作りに努め、布団干しなど環境づくりを行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が代わった場合は申し送り帳や口頭で説明し、また薬状をみて把握できるように個々のファイルにとじて保管している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が続けている役割を続けていただいたり、誕生日や季節の行事を企画したり、隣接の施設にくるボランティア鑑賞への参加を、個々の希望等も聞き入れながら促す等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など、個々に希望を聞きながら行っている。またご家族様との外出等は積極的に勧めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望に応じて支援している。1, 2名自己管理にて所有し買い物に行ったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば応じている。また手紙等のやり取りも一緒に書いたり、出しに行ったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じ、壁紙を変えたり写真を変えたりしている。また気温等にも気をつけ、10時と14時にチェックするなど、過ごしやすい環境をつとめている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に長椅子を置いたり、玄関先にベンチを置くなどして、その時に応じて過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのものを居室に置いてもらうよう説明し、入居後も随時ご本人様が住みやすい環境を作るために情報を共有している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの配置やタンスなどの配置など、その方が過ごしやすいよう考慮している。またベッドや車いすなどその方にあつたものを使っていただくよう配慮している		